



鹿児島県立鹿児島中央高等学校

～自主 好学 敬愛～

進路指導室だより10月号

発行:進路指導部企画運営係<令和元年10月31日>

センター試験出願 受験近づく

10月10日17時現在のセンター試験出願者数が53万917人との発表があった。受験が確実に近づいている。

3年生は、月に2度以上の模擬試験が続く。特定大学のプレテストも170人以上が受験する。日々緊張感が増していると思う。ところで、先日分かった9月マーク模試の結果をどのように受け止めているだろうか。模試の結果は、1ヶ月以上前の学力である。その後の自分の成長を信じよう。そしてセンター試験までの残り11週でのさらなる成長を信じよう。

昨年と同じ内容だが、大切なことなので再度紹介する。9歳～11歳はゴールデンエイジとよばれる。神経系が発達するこの時期は、スポーツなどにおいて技術力が大きく伸びる。現役の受験生にも同様の時期がある。10月中旬～12月中旬の約2ヶ月間である。なぜこの時期に学力が伸びるのか。それは、こつこつと積み上げられた断片的な知識が体系的な知識に変化し、問題を解く能力が高まるからだと考えられる。また、授業が受験に向けた演習へと切り替わっていくこの時期は、分からないことが具体化してくる。解決すべきことの見通しもよくなり、さらに学ぶ意欲が湧くのも理由の一つであろう。

受験は団体戦である。クラスに目の色を変えて学習する人が増えれば、クラスの雰囲気が変わり、クラス全体の更なる学力向上が見込める。今こそゴールデン「タイム」である。個人で、集団で、大いに学力を伸ばそう。

志望大学選択 —2年生—

中央生として1年半を過ごした。学習面における自分の得手不得手も自覚できているはずである。ぜひとも今年中に志望大学を絞り込み、受験科目と配点を確認しよう。「数学が苦手だから、数学を使わない大学(配点が低い大学)を探す」のは良い選択とは言えない。まだ1年以上ある。どの分野から克服し、苦手分野をどこで補うのか。当たり前だが、スタートは早い方がいい。

また、この学年は入試システムの変更にも敏感になる必要がある。長崎大学の「情報データ科学部」増設、北九州市立大学の地域創世学群での定員増、何より中央高校の先輩方が最も多く在籍する鹿児島大学の教育・理学・工学部での大規模学部改組等の情報は得ているだろうか。積極的に情報収集に努めよう。

文理選択 —1年生—

以下に、学年PTA資料とは別角度から文理の特徴を示す。予備調査締切も近いが、しっかり考えて欲しい。

<文系コース>

資料や情報を収集し、自分の言葉で表現する力が要求される。国内外の文献を読みこなす国語力・語学力だけでなく、専門分野の知識を深め、社会の動きに敏感になることが要求される。また、統計等を用いる経済学・心理学等は勿論のこと、他の学問も論理的に考えていくため、数学的な思考も重要になってくる。

<理系コース>

問題に対して、仮説を立て検証する力が要求される。自然科学の事象を理解するための理科学的な知識、実験データを正確に把握・分析するための数学力が求められる。また、論文やレポートを書くための表現力、文献を読みこなすための国語力・語学力も求められる。

集中すること

「進路指導室便り 6月号」で、3年生の進路講演会の内容の一部として、「高い集中力を維持するには座り方が大切」ということについて触れました。ここでもう少し詳しく説明します。



【参考: <https://chubukyoiku-labo.jp/study-posture/>】

いくつかのサイトで紹介されていますが、内容はおおむね共通しています。

- ①悪い姿勢だと呼吸機能が十分発揮されない。
 - ②必要な酸素を十分脳に供給できない。
 - ③脳は取り込んだ酸素のうち20～25%を必要とする。
 - ④取り込む酸素が少なければ脳の働きは低下する。
 - ⑤首や腰などに余分に負荷がかかり疲れやすくなる。
- 自分の力を発揮するためにも、再度意識しましょう。

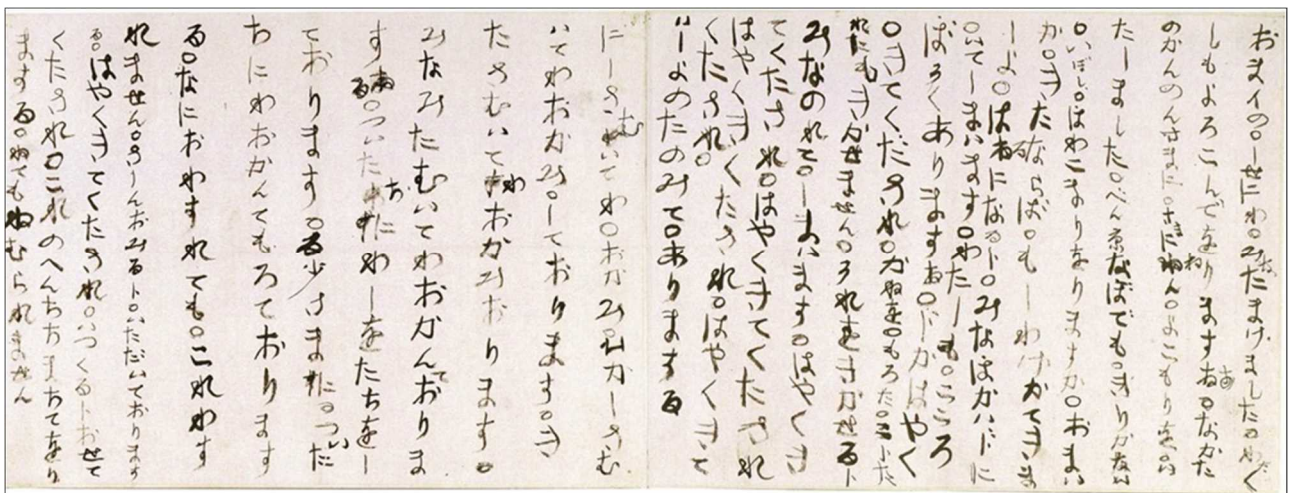
センター試験まであと79日。頑張れ3年生!

私の人生観・書道観を180度変える手紙に出会いました。それは、今から10年程前のことです。書道の研究授業の準備のため、日常生活の中にある手書き文字を探していました。他の先生の知恵をお借りしようと、ある先生にお聞きしたところ即答で答えていただいた作品が、野口英世さんの母シカさんが息子に送った手紙でした。恥ずかしい話、私はそれまで書道は技術が第一であり、そこが秀でているからこそ見る人に感動を与えていると思っていました。しかし、この手紙に出会って今まで大事にしてきたことが全てではないことに気づかされました。決して上手とは言えない手紙を見て涙がこぼれるほど感動していました。もちろん手紙の内容にも感動しましたが、一字一字にかける切実な思いが手紙の線からこれでもかと伝わってきたのです。衝撃でした。それからというもの、書道観が変わり、広がりと言ったらいいのでしょうか？書を楽しく感じる気持ちもますます加速していきました。

ここで野口シカさんについて紹介しておきます。息子は千円札にも載っている野口英世さんです。英世さんは医学の道を志し、アメリカを拠点に世界で活躍しノーベル賞の候補にもなった人です。西アフリカで黄熱病の研究中に感染し51歳で亡くなりましたが、最後まで病気の研究を続け命を燃やした人です。一方母シカさんは、幼いころ、文字を覚えはしましたが、貧しくほとんど文字を書く機会がありませんでした。しかし、長い年月会うことができない英世に一目会いたいという気持ちで、近所の寺の住職に頼み込んでいちから読み書きを教えてもらい、囲炉裏の炭を指先につけ必死に文字を練習したと言われています。相当な努力家で苦勞の末に国家試験に合格し、正式な産婆の免許を取得し、生涯にわたって合計二千人近くの子供をとりあげたとも言われています。親子共々周りの人から慕われ生涯を過ごしたのです。さて手紙を受け取った英世は、1915（大正4）年に15年ぶりに帰国し、母との再会を果たします。

話は戻りますが、シカさんは木炭に唾を付けながら英世さんに手紙を書きます。その濃淡もこの手紙の魅力です。読んでいけば文字の切れ目はめっちゃくちゃです。それなのになぜ人の心を打つのでしょうか？言葉の意味を知り、背景を知ることによって心に響いてくる。「見た目だけではない」ところに感動が生まれるのではないのでしょうか？意外に身近に自分の人生観を変えてくれるものはあるはず。ただ、気づかないだけかもしれません。

最後に、みなさんは文理選択の時期になりました。「自分が影響を受けるものを自分で選んでいたら都合の良い自分にしかたない」ともいわれます。自分の好き嫌いだけで安易に物事を取捨選択するのではなく、自分の可能性を広げられるような広い視野を持ち文理選択を行ってほしいと切に願います。



野口シカ書(野口英世記念館蔵)

現代文訳/ お前の出世には、皆たまげました。わたくしも喜んでをります。中田の観音様に、毎年、夜籠りをいたしました。勉強なんぼでも切りがない。烏帽子(烏帽子村から金の催促)には困りをりますが、お前が来たならば、申し訳ができました。春になると、みな北海道に行つてしまひます。わたしも、心細くあります。どうか早く来てくだされ。金を貰うたこと、誰にも聞かせません。それを聞かせると、みな飲まれてしまひます。早く来てくだされ。早く来てくだされ。早く来てくだされ。早く来てくだされ。一生の頼みであります。西さ向いては拝み、東さ向いては拝みしてをります。北さ向いては拝みをります。南さ向いては拝んでをります。一日には、塩断ちをしてをります。栄昌様(天台宗の修験者)に一日には拝んでもろてをります。なにを忘れても、これ忘れません。写真を見ると、戴いてをります。早く来てくだされ。いつ来ると教へてくだされ。これの返事待ちてをります。寝ても眠られません。

データでみる受験勉強の開始時期

2年3組 担任 東 雄作

後期がスタートしました。3学期制の学校では、2年生の3学期を3年生の0学期ととらえ受験勉強をスタートさせます。本校は2学期制なので後期を3年生の前々期ととらえ受験勉強を開始して欲しいと考えます。他の学校は3学期からだからまだ早いだろうと考える人もいると思いますが、むしろ遅いぐらいです。その証拠に以下のようなデータがありました。

受験勉強を始める時期の参考になるのが、進研ゼミで知られている「ベネッセ教育研究所」の調査と、大手予備校の「東進」によるリサーチです。

ベネッセ教育研究所が高校生を対象に「大学受験を意識し始めた時期」を調査した結果、高校2年生のころが29.5%で最も高く、次に高校3年生のころが24.3%となっています（出典：ベネッセ教育研究所の調査結果）。

また、東進のリサーチでは、難関大学（目安として、偏差値60以上の国公立・私立大学）に現役合格した受験生は、高2までに勉強を始めた人が69.9%となっています（出典：東進合格会場アンケート調査速報）。

また、東進のリサーチ結果では、難関大学に合格した子供のうち部活と勉強を両立していた受験生は82.7%となっています。つまり「文武両道」の子供が多かったという結果が出ています。

受験勉強を始めるときには部活を続けるかやめるかで迷う人が多いです。しかし東進の数字から「部活も頑張るからこそメリハリが付き、受験勉強も集中して頑張ることができる」と考えられます。

後期には学校行事はさほど多くありませんが、部活動をしている生徒は新チームになってからの成果を問われる大会や発表会などがあり、受験勉強をしなくてはならないと分かっているにもかかわらず一歩を踏み出せない生徒もいるでしょう。

そんなときには「このままでは時間が足りない。今から勉強を始めないと」と危機感を持つことが大切です。以下のようなことを試してみてください。

- 教科書の後ろのページまで見て、まだ学ぶことが膨大にあることを知る。
- 模試を受けて「今の成績」「志望校の合格判定」「受験までの残り期間」を自覚する。
- 志望校になりそうな大学、「行けたら良いな」と思う大学の過去問を確認してみる。

56期生全員が後期を3年生の前々期ととらえ受験勉強を開始してくれることを期待します。

～気張いやんせ56期生～ 将来の職業は何かいいか

今教育相談期間である。私が最初に生徒の皆さんに質問することは「将来どんな職業に就きたいと思っている？」です。これに対する答えは千差万別。まだまだ本気で考えている人は少ない。まして、しっかりとした目標にして、努力している人はとても少ないと感じる。安定した仕事がいいとか、取った資格を生かした仕事がいいですなど、現実を全く見ずに答えている人がとても多い。確かに、今の理想通りの仕事に就くことも可能ではある。しかしそうなる人は数少ないのが現実である。厳しい世の中が待っている。そこでどう生き抜くか、しっかりと自分の適性や興味関心を考えて、将来の目標となる職業を決めていこう。楽な仕事などあるはずがない。覚悟が必要である。

（文責 塘 伸一郎）

さいごの南薩路遠行を終えて…

3年6組 担任 當房哲也

当初は降雨の心配のあった南薩路遠行でしたが、保護者の方々が準備して下さった給水が身にしみるほどの好天にめぐまれました。過去2回の経験があっても、やはり30kmの道のりは長い。長すぎる。特に後半は、上り坂がひたすら続く。前に進めば進むほど、しんどくなり、残りの距離が途方もなく感じてしまう…。

「何でこんなことするの？」 長い道中では、そんな思いがこぼれることもしばしばだったのでは？ 本当に何でこんなことするのでしょうか？する意味はなかった？

そんなことはない。その答えは、それぞれが実感しているはずです。きつい思いに負けることなく、それを乗り越え、成し遂げた者のみが分かりうるその答えを。

人は、あえて自らに試練を課す特別な生き物のようです。昔、世界最強を求めた空手家がありました。その人は、最強をめざし、時には熊や牛と格闘し、自らを鍛え続けました。「どうしたら、そんなに強くなれるのですか？」そんな周囲の問いかけに対して、その空手家は、「人は誰しもが、自分でも信じられないくらいのパワーをもっている。ただ、その3分の1も発揮することなく、眠らせてしまっているだけだ。その潜在的な力を引き出す物、それは、恐怖心だ。」と、答えたそうです…。「火事場のクソ力」とか、「背水の陣」とか、別種の表現もなされているとおり、人は、本当の本当に追い詰められた時、自分でも信じられない力を発揮するものです。

若干突拍子もない例かもしれませんが、これからいよいよ受験の正念場を迎える皆さんにも通じるものはないでしょうか？ 本番にむけてカウントダウンが進む日々は、不安やプレッシャーとの戦いの毎日でもあります。眠れぬ日々を過ごすこともあるかもしれません。「不安が募って、プレッシャーに押しつぶされそうで、勉強に集中できない…」そんな愚痴もこぼしたくなるかもしれません。しかし、先ほどの例でいうと、そんな愚痴をこぼしているうちは、まだまだ不安やプレッシャーが半端なのかもしれません。本当の本当に追い詰まった時には、半ば開き直りにも近い気持ちで、「何クソ！」の闘志が湧いてくるのではないのでしょうか？

不安はつきないけれど、「自分はやれる！」「やれる力をもっている！」そんな感触、実感求めて、時に人は自らに試練を課することがあるのではないのでしょうか？

遠行を歩きながら、受験のこと、人生のことを思った人もいるでしょう。受験や人生をマラソンに例えた話は、これまでもいっぱい聞いてきたはず。センター試験まで、残り78日足らず。卒業まで123日。高校生活というマラソンも、いよいよ、残り4kmをきるところまで来ました。スパートをかけて行くタイミングです。TVのマラソン中継などで、このあたりまで先頭集団にいた選手が脱落するのを見るのはとても残念ですね。ここまで懸命に食らいついてきたのに可哀想、もったいない。というか、あと少しなんだから、根性で負けるなよ！と勝手ながら檄を飛ばしたくなったりする…。今、そんなタイミングにきています。

マラソンなら、最後に「足が止まる」、「足が棒になる」なんてことがあるかもしれません。でも、受験は違います。試験直前まで伸び続けるのが現役生。この言葉も何度きいたことでしょうか？最後の最後まで加速し続けることのできるのが現役生であり、その加速が誰よりも速いのが中央生です。「やればできる。」「辛くても負けない。乗り越えられる」その自信を最終確認できた遠行だったと思います。

これからゴールにむかって、どんどん苦しくなるかもしれない。それこそ、ゴールの直前が一番苦しい。でも、ゴールしたその先には必ず待っているものがあります。それも遠行で経験できたはず。最後は、知力のみならず、気力、体力も含めた人間力すべての勝負。これからの道のりをさらに強く前に進んで行く中で、そうした総合的な人間力も仕上げていきましょう。いよいよスパートです。今まで以上に、チームワークで、みんなで励まし合って、最後の坂道を、ペースを上げて突き進んでいきましょう。歓喜のゴールにむけて。

「雲外蒼天」 今は苦しくとも、必ずゴールの先に関けるものがあるはず。それを信じて。

